

クラスワイド(学級単位)のポジティブ行動支援 実践研究報告

小学校低学年の児童に、教室での
ルールを守って授業に参加すること
を教える。

学級の実態

- 全体的に集中して話を聞くことが難しい。
- 何らかの支援が必要な児童が多い。
- 児童たち同士で注意し合うことが多い。
- 授業中の自由な発言が多い。
- 授業のルールを決めているが定着しない。
- 時間はかかるが、型にはまるとできる。

教員の考え（担任）

- 集中して話を聞けるようになってほしい。



アドバイザーからの助言

クラス作りとルールについて

- まずクラス全体としてのルール作りが大切。
- ルールがあることで、予防的な取り組みが可能。
- 意識的に先手を打った対応を。
→「静かに手を挙げている子を当てますよ」
- ルールは学年でそろえる。
- ルールは、肯定的に伝える。
→「～しない」よりも「～しよう」
- 待つ時間を最小限に。
- 声の大きさを練習する(発表するとき、考えるとき)。
- 「話していい時」「静かにする時」とはどんな時か。



指導目標

ルールを守って授業に参加することができる。

ルール

- 授業中は静かに手を挙げる
- 話している人や教員を静かに見る



方法

【対象児】

通常学級 低学年児童 23名

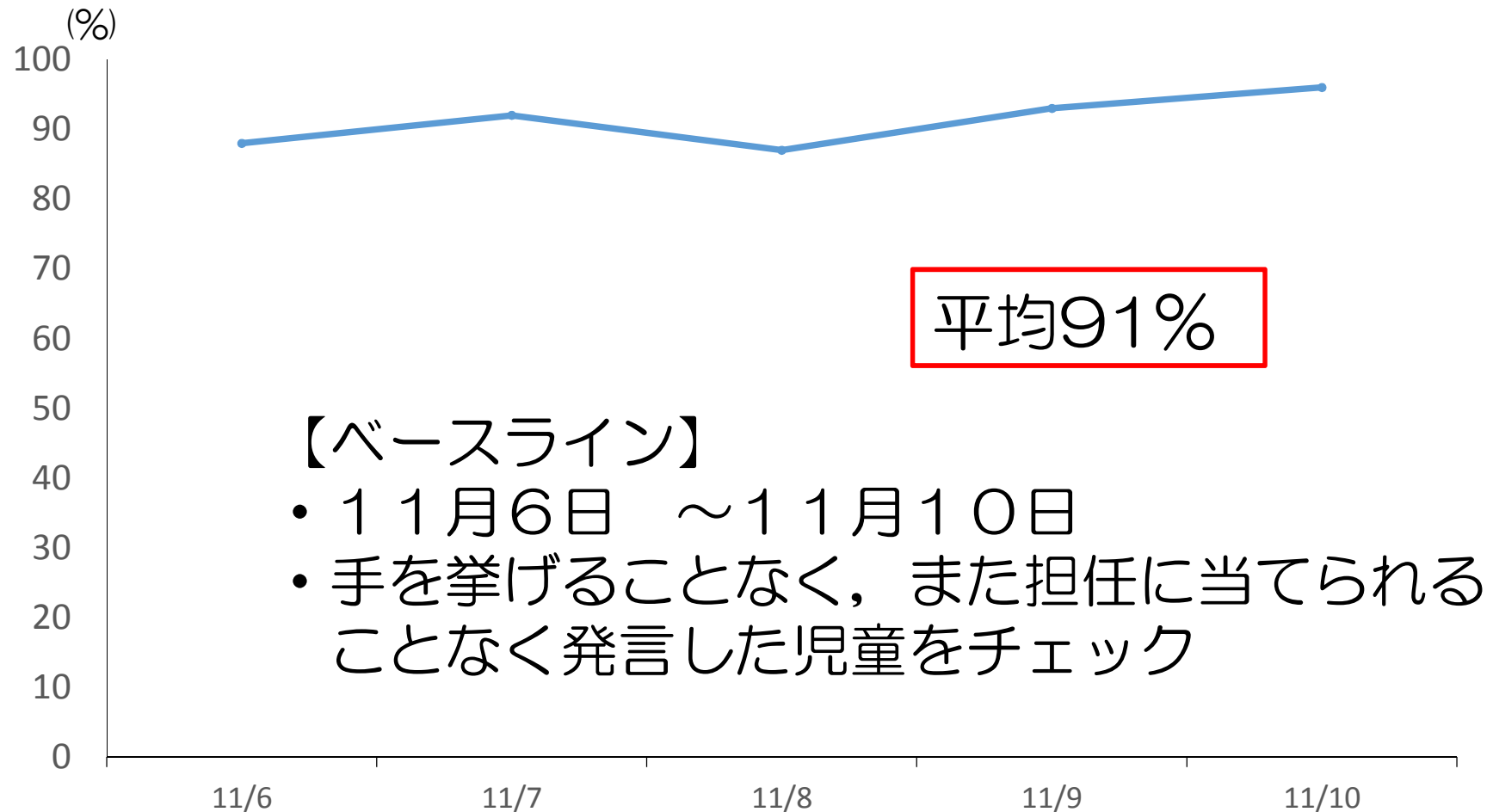
【指導場面】

- 1～5時間目の授業（のうち1時間～2時間）

【記録方法】

- 手を挙げることなく、担任に当てられることなく発言した児童をチェック
- 1時間を15分単位に分けて人数を記録

ベースライン(全体)



2つのルールを守って、授業に参加できている児童の割合

支援方法①

取組期間：12/18～12/22

友だちへの声のかけ方を教える

- 「～しようね」とあったか言葉で
- ジェスチャーで
- 一度だけ声をかける

～声のかけ方が適切でない時～

→さらっとやり直しをさせ、あったか言葉で
言えたことを褒め、定着へつなげていく

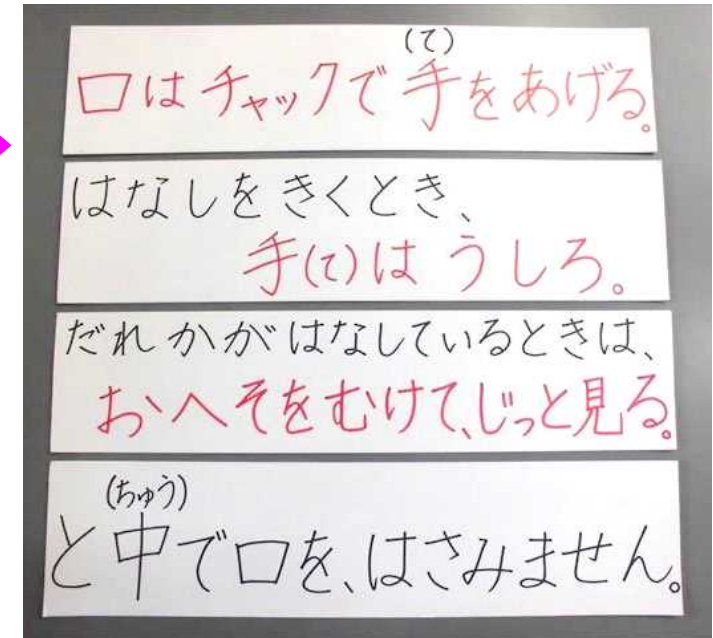
支援方法②

取組期間：12/18～12/22

「聞く時」の4つの約束を作成

〈支援手順〉

- 学活の時間を使って説明と練習。
- 目に触れるように黒板に提示。
- 声に出して唱える。
- 静かに聞くべき場面の直前にルールを再確認。



～教員たちからのアイデアより～

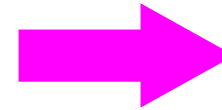
- 4つの約束を毎朝唱える。
- できていない子には、ルールの言葉で声をかける。



支援方法③

取組期間：1/18～1/25

「お楽しみ」を設定する



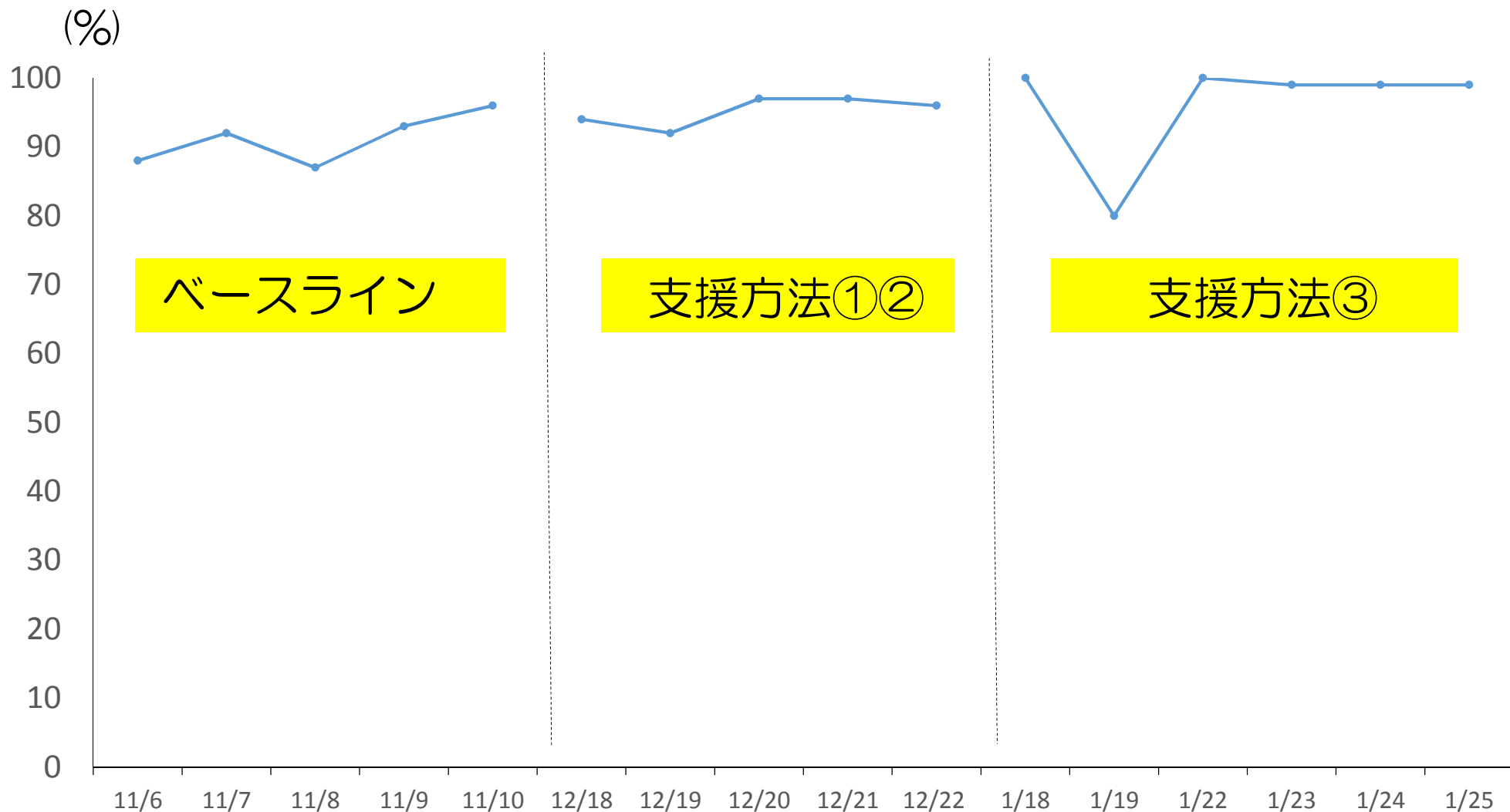
【支援場面】

- 朝の会，帰りの会。
- 4つの約束を守って話を聞くことができたなら花丸。
- 花丸が3つたまると，「お楽しみ」。

【お楽しみ例】

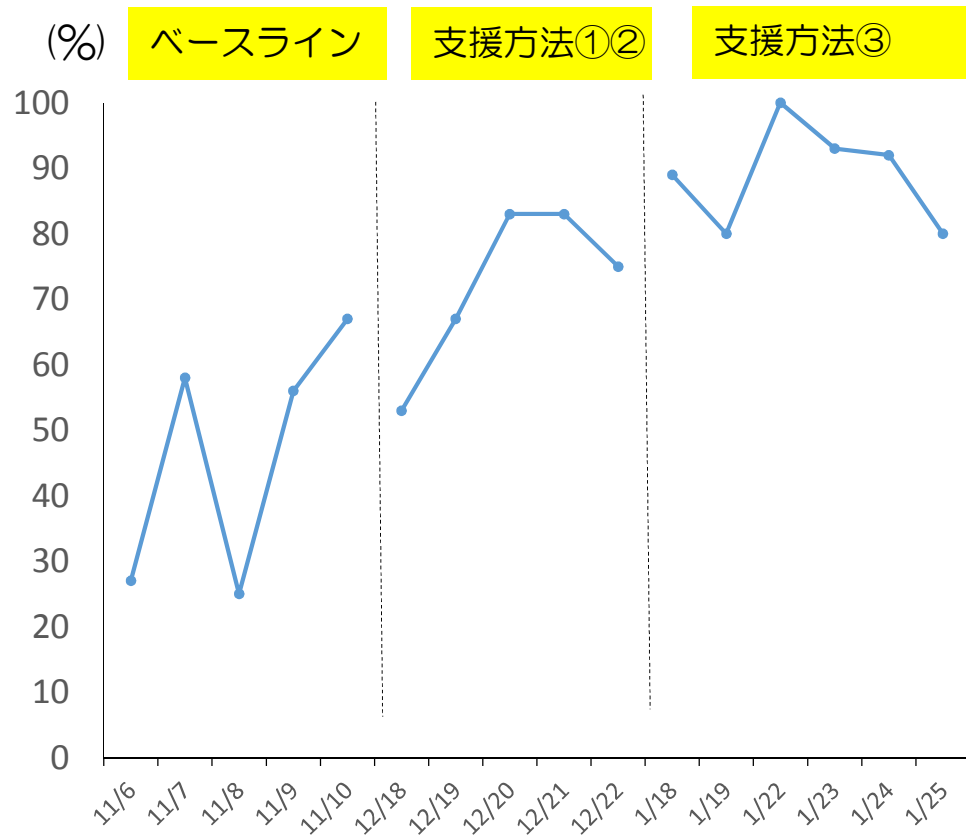
授業を早めに終わってみんな遊ぶ。
シールがもらえる。

結果(全体)

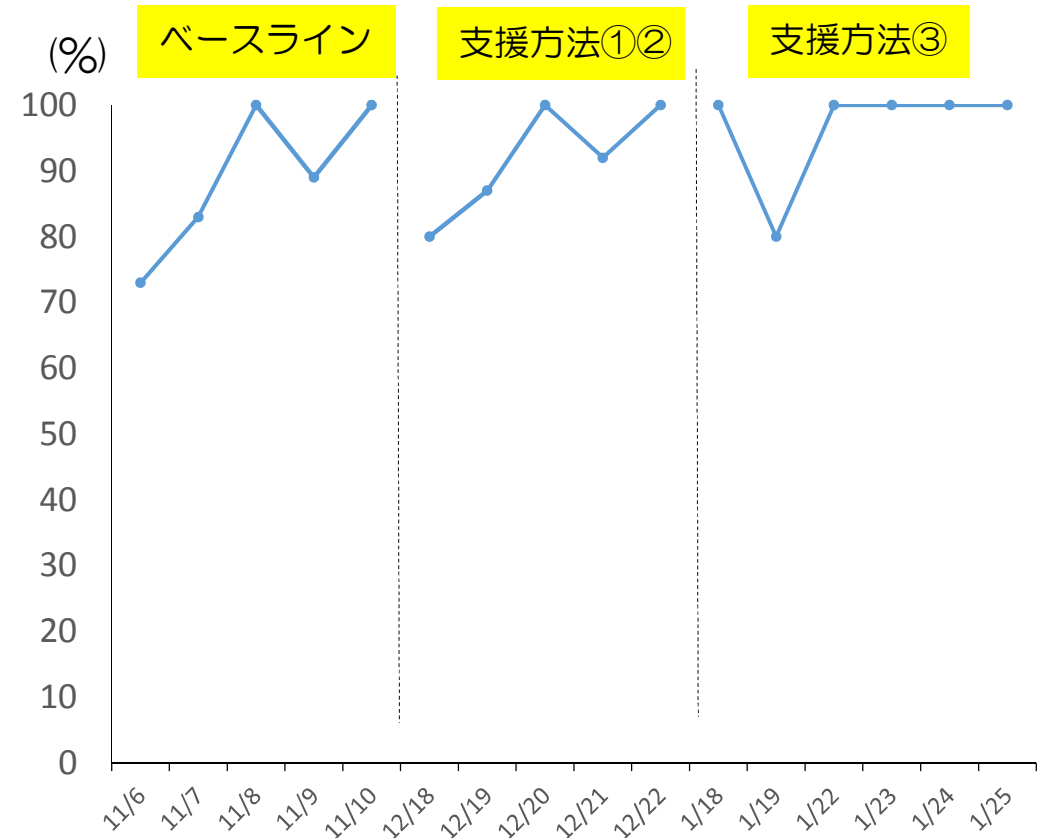


2つのルールを守って，授業に参加できている児童の割合

結果(個別の事例を抽出)



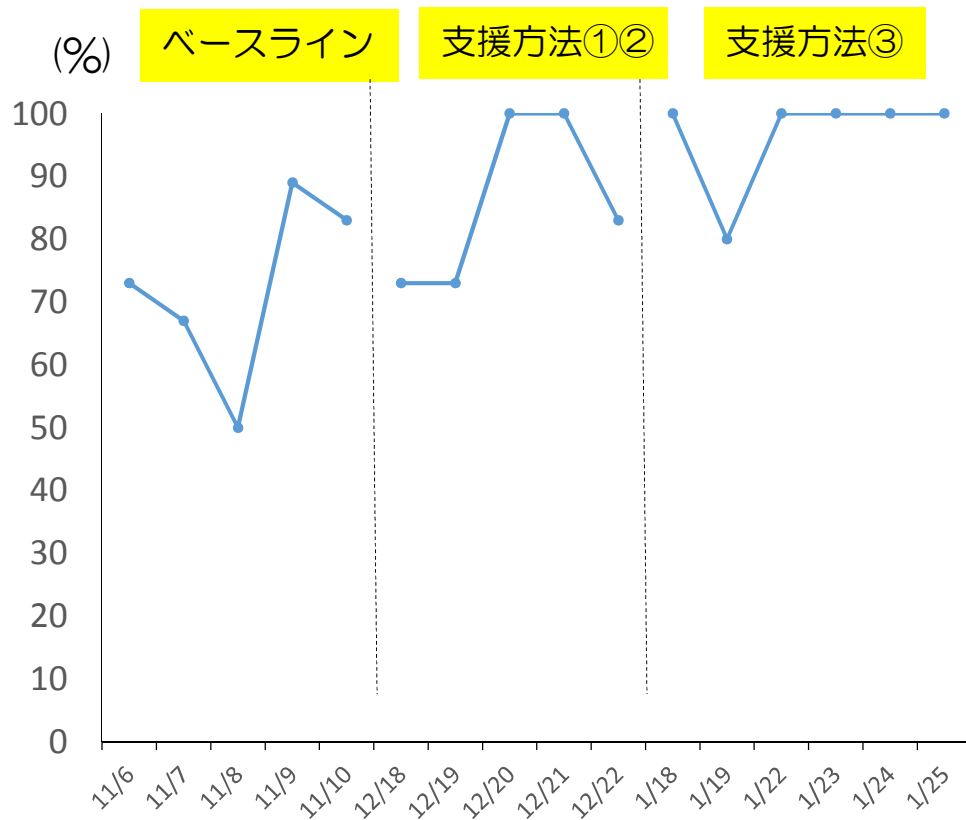
A児



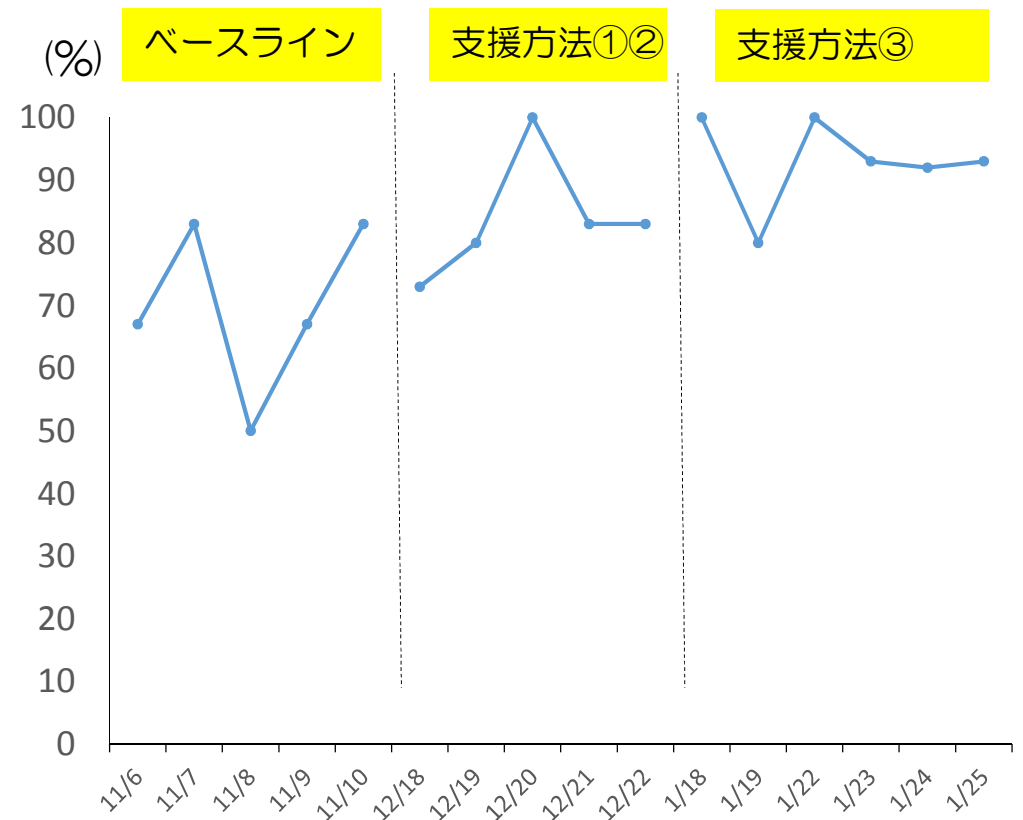
B児

2つのルールを守って、参加できている授業の割合

結果(個別の事例を抽出)



C児



D児

2つのルールを守って，参加できている授業の割合

結果

- 支援方法①，②を始めてから，約束を守れた児童が増えはじめた。
- 支援方法③を始めてから，ほとんどの児童が守れている。
- 時折つぶやきや勝手な発言も見られるが，授業に全く関係ないものはほとんどなくなった。

実施後の変化(観察)



- 自分で気づいて直すことができるようになった。
- 静かに手を挙げて，質問や発言ができるようになった。
- 話し手を見て話を聞くことが定着してきた。
- ご褒美をもらえるのは，朝の会と帰りの会で設定していたが，授業中にも効果が波及している。
- 気になっていた4名についても，「花丸」や「お楽しみ」に対しての意欲があり，頑張ろうとする姿が見える。
- 朝会でおへそを向けて話を聞くことができるようになった。

ここが成功のポイント



- 「何を改善したいのか」「児童たちにとって今、何が必要なのか」を具体化したこと。
- 児童たちと教員が共にがんばっていくきっかけになったこと。
- 複数の教員やアドバイザーがいることで、「学級経営として今何が足りていないのか」を多くの視点で見ることができ、取組や改善を行うことができたこと。